

しいたけの作り方

原木

■樹種

最適樹: ナラ、ミズナラ等のナラ類・クヌギなど。

適樹: シイ・シデ(ソネ)・カシ・クリ・カシワ・ノグルミ(ノブ)その他。

■伐採

時期: 半紅葉期から、新芽が出るころまでに伐採する。

太さ: 5cm位から、30cm位のもの。

■枝干し(葉枯らし)

- ・枝、葉をつけたまま、均等に水分を抜く。
- ・直射日光が当たらないよう、枝・葉などを覆う。

●期間・・・30～100日

※木口にひび割れができるまで

※常緑樹は15～30日位

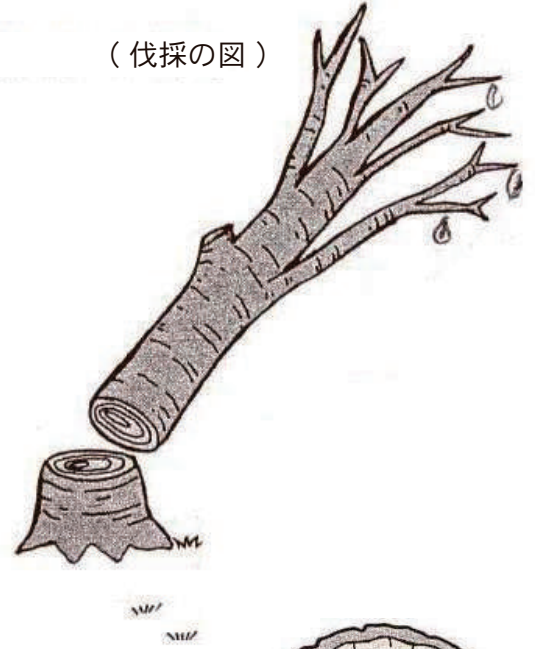
※大径木は長く、小径木は短い期間

■玉切り(栽培に適した長さに切りそろえること・標準長さ90cm)

時期・・・細かいひび割れが、木口の樹皮の近くもできた頃

※玉切り後(購入原木も)は、すぐに植菌しない場合は、直射日光に当たないように遮光ネットなどで覆い乾燥を防ぐ

(伐採の図)



木口のひび割れ状態で、玉切り適期を判別する

植菌

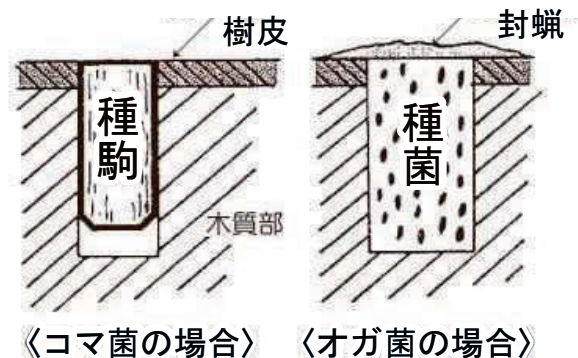
■時期

・玉切り(購入原木も)したら、乾燥しないうちに植菌する。

[小径木より植菌をはじめ、大径木や生木の原木は後に植菌する]

秋の植菌: 10月頃から12月頃まで、厳寒期は避ける。

春の植菌: 2月頃から4月頃まで。



〈コマ菌の場合〉

〈オガ菌の場合〉



植 菌

■方 法

- ・樹皮面に、専用の孔明器か回転数の早い電気ドリルにキノコ用のキリ(8.5ミリ)をつけて、千鳥状か、ラセン状に植え穴をあける。
- ・木口の近くや死節・傷口の付近におおめに植える。太い原木には、木口面にも植菌する。

駒 菌 … 直径8.5mm、深さ20mm位の穴をあけ、樹皮面と平に種駒を打ちこむ。

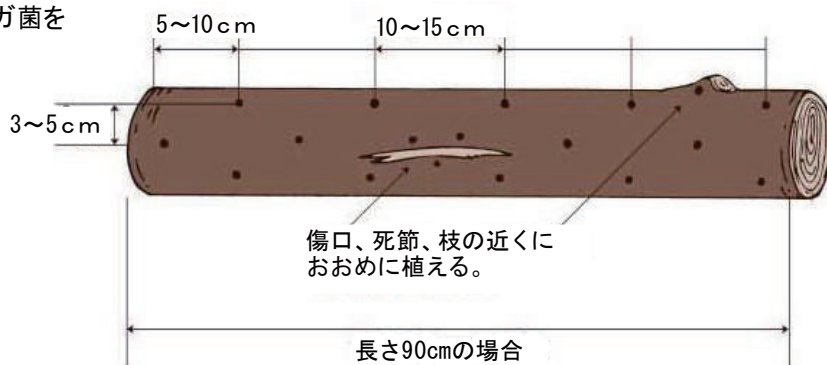
オガ菌 … 直径12mm、深さ20mm位の穴をあけ、オガ菌を樹皮面と平に移植器で詰め、そのうえに解かした封蠟(ふうろう)を塗る。

植菌数 … 原木の木口直径(cm)の3~4倍の数。

例) 植菌数 = 木口直径(cm) × 3
30ヶ = 10cm × 3

植菌列数 … 原木の木口直径(cm)の1/2の数。

例) 植菌列数 = 木口直径(cm) ÷ 2
5列 = 10cm ÷ 2



木口直径 (cm)	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26
植 菌 数 (個)	24	30	36	42	48	54	60	66	72	78
植菌列数 (列)	4	5	6	7	8	9	10	12	14	16

※椎茸菌は5℃位で活動し22~28℃で旺盛になります。

植菌孔数を標準より多くしたほうが、より短期間で安全に菌を原木にまわすことができます。

仮 伏 せ (菌の活着を良くし、ある程度菌糸を伸長させるために行います)

■場 所

- ・水はけが良く暖かい木かげ、散水のできる屋外やハウス。

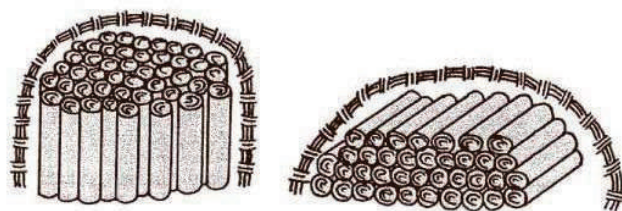
■期 間

- ・植菌から5月いっぱいまで、おそくとも入梅前まで。

■方 法

- ・立て寄せか横積み(1m以下)にして、周囲をコモやムシロ・ダイオシートなど雨の通るもので囲み、厳寒期に限りビニールなどで囲み保温する。
- ・上部同様とし、一週間程度毎日散水する。
- ・植菌後、乾燥に注意して時々(1週に2~3回)散水する。
- ・植菌時期がおくれた場合は、仮伏せをしないですぐ本伏せにする。

<仮伏せ例>



本伏せ

■場所

・林、ハウス、裸地、人口ホダ場など。

ホダ場 … 茸を発生させる場所(ホダ起こしの場所)をいいます。直射日光をさけ、チラチラ散光線の入る明るく、暖かく荒風が入らず、湿気のある空気が対流する3乾7湿の場所がよく、暗いところでは茸があまり発生しません。

・水はけが良く、暖かく明るく風通しが良いところ。

・直射日光は避け、湿度が低いところ。

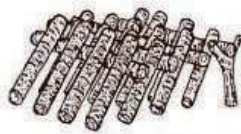
■時期

・6月上旬頃まで。大部分のほだ木の木口に菌糸紋(キノコの菌が木口に現れた状態)が表れた頃。

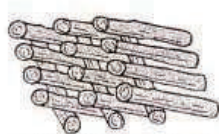
・高温、多湿になる入梅前に急激な温度変化と乾燥を避けながら、本伏せにする。

■方法

①よろい伏せ



▲高い姿勢のよろい

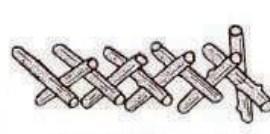


▲低い姿勢のよろい

②百足伏せ



▲高い姿勢のむかで



▲低い姿勢のむかで

③鳥居伏せ



④井桁積み



⑤三角積み



※裸地に伏せる場合は、ほだ木の上に笠木や遮光ネットで覆い直射日光を防ぐ
風通しが悪く、湿地や大径木は高い姿勢に伏せる。風通しが良く、乾燥地や小径木は低い姿勢に伏せる。

■管理

・ほだ木に出た萌芽は欠きとり、下草刈や枝払いをして遮光に注意する。

天地返し…ほだ木の上と下、裏と表を返し、横木と立て木を取り替える。

※7月から10月までの間に、曇った日に2~3回行う

環境 … 温度は15~25℃、湿度は60~80%

※自然発生もしますが、手を加えるとより良く発生します。



ホダ場(発生場)での
"立て込み"の図

発生

■自然発生

・植菌から二夏過ぎた完熟したほだ木

・発生温度8℃~25℃(品種により温度帯が異なる)

■発生前の管理

・本伏せにしていたものを一変くずして、キノコが発生しやすいように組みなおします。

・発生前30~40日から、ときどき散水してほだ木に活力を与えておきます。

自然降雨の場合は月に100~150mmの雨量があれば好結果が得られます。

■発生操作

ほだ倒し…秋から春まで、ほだ木を倒し散水して水分を吸収させる。

ほだ起し…ほだ木を起し、合掌やよろい伏せなどに組み、きのこを発生及び成長させる。

